

# 宮澤賢治センター通信

(岩手大学内)

(題字/金森由利子)

第8号

発行人

〒020-8551  
盛岡市上田四丁目3番5号  
電話 019-621-6672  
FAX 019-621-6493  
宮澤賢治センター(岩手大学内)  
発行責任者 岡田幸助

## 目次

- 巻頭言 副代表挨拶……………1
- まるごとデジタルミュージアム……………2
- 定例研究会の概要……………3~6
- 宮澤賢治記念短歌会……………8
- 第3回宮澤賢治学生短歌大会報告……………9~10
- 賢治と音楽の会便り……………10
- テクノフェアはなまき2009……………11
- 倉吉訪問記……………12
- 経埋ムベキ山登山……………13
- 経埋ムベキ山のアザリアの秋の風景……………14~16
- 動物公園開園20周年記念シンポジウム……………16

## 賢治センターの歩み

(平成21年8月以降)

### 事務局会議・役員会

当センターの円滑な運営を図るため、毎月1回ずつ事務局会議と役員会を開催しています。

### 定例研究会

当センターの主要行事として、平成18年の第1回以来、毎月1回を目標に開催しています。

### 三三茶話会

打ち解けた雰囲気での1時間の懇談会は参加者の好評を得ています。(詳細は7頁に記載)

### 宮澤賢治学生記念短歌会

当センターの発足以来、賢治ゆかりの百年記念館を会場に、望月先生の指導を得ながら、毎月欠かさず例会を開いています。(詳細は8頁に記載)

### 第3回宮澤賢治学生短歌大会

宮澤賢治センターが主催し、宮澤賢治記念短歌会が主管して、広い意味で宮澤賢治に関わるものであること、幼稚園・大学・大学院の学生・生徒であること、投稿資格として募集されました。(詳細は9・10頁に記載)

### 「経埋ムベキ山」登山

「経埋ムベキ山」とは賢治が「雨ニモマケズ」手帳に書き残した32の山のことです。今年は

## 巻頭言



## クーパー博士とブドリ 「凶作に関する研究」から学ぶこと

副代表 森 三紗

宮澤賢治の「グスコープドリの伝記」は1932(昭和7)年三月十日発行、季刊誌『児童文学』(佐藤一英編集・文教書院)に賢治が生前発表した作品で人々の飢饉を救済することをモチーフにした完成度の高い作品である。作品成立について考えると最初「ペンネンネンネン・ネン・ネンの伝記」からグスコープドリの伝記へと変わりさらに「グスコープドリの伝記」と変わっていく。第一章のブドリ一家の平和な幸福な生活は、東北地方を襲った2年続きの冷害のため飢饉となり食べる物がなくなり、最初父が次に母が森の奥に姿を消してしまふ。また、ネリがさらわれ、一家が死別離散してしまふ悲劇が起きる。ブドリの家はてぐす工場に

かわる、その後沼ばたけで赤ひげの百姓に雇われブドリは本を読んで知った木灰と食塩で稲熱病を防ぐが、その次の年から3年間は続けて早魃で、農園は規模を縮小される。第4章でブドリはイーハトーブ市へ行きクーパー大博士の学校で講義を受けに出かける。クーパー博士の風貌は、盛岡高等農林学校の賢治の恩師にとてもよく似ていると言われているが、ブドリは火山局への就職まで斡旋してもらう。イーハトーブ火山局で学びベテランの火山技術者となったブドリは最終章多くのブドリ達を救済するために冷害を防ごうと博士と相談してカルボナール火山島を爆発させるためひとり島に残る。見事にモチーフが結晶していると思う。

賢治作品を魅力ある光彩を放つ作品にしている一つの理由に作品の根底に賢治が直面した自然現象や社会現象をリアルに観察し分析する高等農林でうけた専門教育による学識そして視座がある。授業を受けた教授陣の授業への熱意と同人雑誌「アザリア」の友人達との交友と創作が賢治の生涯、作品に及ぼした影響は計り知れない。関係者の努力でリニューアルされた岩手大学農業教育資料館を訪ねると賢治が受けた授業を担当した教授たちの冷害に関する研究論文や当時から苦労して収集した鳥類・動植物・鉱物等の標本が整然と展示され、賢治の得業論文や採取した岩石も見ることが出来る。また飢饉について調査するなか父森荘巳池の書籍の中の

「凶作二関スル研究」第四報「東北地方古今凶饉誌」(盛岡高等農林学校)昭和十一年版を読んだ。紐解くと序文に「昭和九年ノ東北地方ノ冷害凶作ハ天下ノ耳目ヲ聳動シタルトコロナルガ夙ニ明治卅八年ノ大凶作以来凶作ニ關スル研究ヲ怠ラザル我盛岡高等農林學校ハ凶作ノ中心地ト認メラル、岩手県下ノ全町村ニ亘リテ實情ノ徹底的調査ヲ行ヒ更ニ昨年ノ冷害發生ニ對シテモ亦細密ナル検討ヲ施シ…」創設からの課題解決の気魄が序文にみられる。特筆すべきことは「教授門前農学博士ノ東北地方ニ於ケル古今ノ凶饉ヲ歴史的並ビニ地理的ニ精査シ…」と東北地方の歴史・地理・解決法を調査研究した成果が判明し深く感銘を受けた。岩手大学図書館には救荒作物の貴重な書籍があり、調査に事欠かない良い環境を整備していることに卒業生としても謝意を表したい。

種山ヶ原に登りました。(詳細は13頁に記載)

賢治の音楽の会  
賢治が楽しんだと思われる音楽を再現し鑑賞する会です。(詳細は10頁に記載)

テクノフェアはなまき2009  
テクノフェアはなまき2009

9実行委員会(花巻工業クラブ)主催のイベントに賢治センターの学生も参加しました。(詳細は11頁に記載)

「銀河の誓いin花巻アザリアの友たち」  
花巻市制55周年事業として行われた表記の行事に岩手大学藤井克己学長が参加しました。(詳細は14、16頁に記載)

「宮澤賢治の青春キャンパス」  
岩手大学新設ホームページにWebサイトまるごとデジタルミュージアムを構築し、その中に「賢治の青春キャンパス」や「アザリアの咲くとき」展の模様アップされます。(詳細は本頁に記載)

「宮澤賢治センター会員名簿の作成」  
平成22年度の総会に向けて名簿の作成を行います。住所の公開を希望されない方はご連絡ください。(詳細は16頁に記載)

倉吉訪問記  
賢治の親友、河本義行の出身地である鳥取県倉吉に岡田代表が訪問しました。(詳細は12頁に記載)

# 「アザリアの咲くとき」

## パンフレット「宮澤賢治/青春キャンパス」

「アザリアの咲くとき」が見れます  
<http://digital.museum.iwate-u.ac.jp>

工学研究科 デザイン・メディア工学専攻 教授 厚井 裕司

### 1. はじめに

岩手大学は、盛岡駅から北へ約2キロという市街地にありながら、緑に囲まれた広大な自然公園を思わせるキャンパスとなつています。他の総合大学が地理的に離れた複数のキャンパスから構成されるのに比較して、本学は一箇所に纏つて超高速のネットワークで結合されている事が、教育において、また研究においても大きなメリットになっていきます。異分野の研究の触れあいや活発な産学官連携事業は、本学の特徴となっています。

大学は、教育や研究に必要な資料の収集と整理を行う他、それらの情報処理及び情報発信に努める役割があります。情報の電子化が進み、その流通形態が歴史的な変革を遂げている現在、デジタルアーカイブ化の活動はまさに大学の教育・研究の競争力を左右する重要な要素であると言えます。このような背景に基づき、岩手大学では情

### 2. まるごとデジタルミュージアム構築の背景と目的

本学は、宮澤賢治が卒業した盛岡高等農林学校をその前身の一つとしています。また、緑豊かな大学内に存在する上田の杜には400年以上の歴史があります。寺町、下級武士の足軽町、上級武士の武家町、住宅地、盛岡高等農林学校、岩手大学と移り変わる中で、現在の植物園があります。その中に啄木の妻となる堀合節子の生家が確認されました。啄木と賢治、節子がこの大学の地でつながっているという由緒ある歴史を有しています。

昨年の6月1日から6月19日まで、岩手大学創立60周年記念展示「アザリアの咲くとき」が行われました。この大規模な学外への情報発信は好評のうちに終わり、岩手大学に関係する貴重な文化的な遺産が公開されま

した。イベントの成果や学内にある魅力的なミュージアムを日本全国に公開すべく、まるごとデジタルミュージアム(図1)を構築致しました。

### 3. 記念展示会「アザリアの咲くとき」のコンテンツ

今回は、宮澤賢治の青春キャンパスと題して、アザリアの仲間たちについて紹介しております。賢治には生前、多くの友がいました。中でも盛岡高等農林学校時代に発行した文芸同人誌「アザリア」の仲間達は、賢治の人生に多くの影響を与えました。今も尚、大学のキャンパスには賢治たちの学び舎だった盛岡高等農林学校の本館や図書館が、農業資料館、ミュージアム本館として残されている他、自然と親しむ植物園や散策コース、野外彫刻などを「まるごとミュージアム」として自由に見学することが出来ます。大学の歴史をタイムトラベルとして、時の移り変わりに沿つて説明するとともに、賢治在籍当時の風情が偲ばれるキャンパス内の各所(図3)を美しいパノラマ画像でツアーしていただきます。

### 4. おわりに

本学のキャンパスには自然・史跡・生活に根ざした有形・無形の文化遺産が多数存在します。まるごとデジタルミュージアム

ミュージアムは、岩手大学の新しい情報発信形態として動き始めた段階です。今後、農業資料館、ミュージアム本館や植物園に残された魅力的な学習情報発信という新しい課題に一步一步取り組んでいくつもりです。



図1 まるごとデジタルミュージアムのトップページ



図2 文芸同人誌「アザリア」とその仲間達



図3 ミュージアムツアーの各地点

# 定例研究会の概要

## 第34回 8月11日(火)

▽会場 農学部1号会議室

▽講師 花巻市博物館長 高橋 信雄氏

▽演題 「チベットと北上山地と宮澤賢治」

▽司会 小島 聡子

参加者 20名。

### 1 等観・大等・賢治

多田等観は、チベットでダライ・ラマ十三世の下で約十年の修行を積み大僧正になり、チベット仏教に関わる多くの資料を日本に持ち帰っている。その資料の多くは、花巻市博物館に保管され、毎年公開されている。

宮澤賢治の大転換期は、『漢和対照妙法蓮華経』との出会いであったとされる。この本の監修者は、盛岡市北山の願教寺住職島地大等であり、大等の主催する夏季仏教講習会に賢治も参加していることは、よく知られている。島地大等は、チベットで修行している多田等観の支援者でもある。また、多田等観は、賢治亡きあと賢治の父政次郎と親交を結ぶことになる。

### 2 チベットと北上山地

宮澤賢治の作品からチベットと北上山地の関係を最初に論じたのは、金子民雄(『宮澤賢治と西域幻想』一九九四年中央公論社)である。金子は、『毘沙門天の宝庫』や『測候所』(「ちじれですがすがしい雲の朝」阿稱達池幻想曲)などの作品から北上山地とチベットを含む西域のイメージを重ね合わせていることを指摘した。

賢治にとってチベットは、仏教への憧れの地であり、仏三千世界そのものであり、そのイメージは、早池峰山をはじめ北上山地の山々で増幅されている。

チベットを含む西域は、宮澤賢治にとって法華経をはじめとする仏教世界そのものである。賢治は、仏教世界を基盤にしなから、西域への興味や関心を深めていったとされ、賢治の西域の知識は、ヘーデンやスタイン或いは河口慧海・橋瑞超・青木文教等の本から得ているとされている。

### 3 西域童話三部作と華嚴経

宮澤賢治は、『雁の童子』の



高橋信雄氏

原稿の題名の右方に赤インクで西域異聞三部作と記している。これを基に金子民雄は、『マゲノリアの木』、『インドラの網』、『雁の童子』を西域童話三部作とした。いずれもチベットを含む西域舞台としている。

【マゲノリアの木】の中で、主人公の諒安は、天からの声を聞き会話を交わす。(さうです、ありがたう、私です。又あなたです。なぜなら私といふのも又あなたの中にあるのですから。)そして「へけれどもこ、ではマゲノリアの木が覚者の善で又私どもの善です。」と結ばれている。これは、華嚴経の無限に重なり合う「一切一切・一切一切」(「一人一切・一切一人」)の表現のひとつと考えることも出来る。

【インドラの網】も「華嚴五教書」の「因陀羅境界門」の

無限の世界を表したものの思われる。空気の薄いツエラ高原で幻想的な世界に入り、クライマックス場面は次のように表現されている。(天頂から四方の青白い天末までいちめんはられたインドラのスペクトル製の網、その繊維は蜘蛛のより細く、その組織は菌糸より緻密に、透明清澄で黄金で又青く幾億互に交錯し光って頭へて燃えました。)これは、インドラの網目に無数の宝珠が交差して、宝珠が互いに映し合う大乘仏教の無限の世界を表現したものと考えられる。

【雁の童子】は、華嚴経の中の「入法界品」の善財童子が下敷きにあると推定される。善財童子は、多くの師匠に学びながら弥勒菩薩に導かれ悟りの世界に入る。【雁の童子】では、須利耶主が天から子供を預かり、育てるストーリーとなっている。そこでは、童子が様々なことを学び天に帰るまでを、賢治独特のファンタジー風に仕上げながら、過去と現在と未来を互いに映し合う世界を描いたと考えられる。

これらの三作品は、法華経をはじめとする仏教思想を基に、それぞれが独立しながらも完結した話としてまとめられている。

華嚴経は、西域で成立したとする説がある。宮澤賢治は、西域で作られた可能性のある華嚴経の世界を基に西域異聞三部作を著わしたのではないかと、『マゲノリアの木』、『インドラの網』、『雁の童子』は、華嚴の世界三部作と言いつ換えることも出来ると思う。(高橋信雄 記)

## 第35回 9月9日(水)

▽会場 農学部1号会議室

▽講師 岩手大学名誉教授 古住 光正氏

▽司会 小島 聡子

参加者 17名。

賢治がいかに石を好きだったかは、彼の作品に登場するその数を見ればよくわかる。しかも、賢治の石に対する知識は単なる愛石家の範囲にとどまらず、「岩石学」をマスターしたプロバターの領域にあることに驚かされる。

彼のこんな原点は、鉱物採集に熱中し、「石っこ賢さん」と呼ばれていた小学校時代に遡る。石への興味は旧制盛岡中学に進学してもとどまらず、勉強そっちのけでハンマー片手に山野を歩き、岩石採取に熱中して



尾根に付けられた登山道で沢から続く崖を這い登ってきた人に出会って聞くと地質調査中というので驚いたとのこと。そう、文字通り山野を歩き回り地質記録を残すのです。このような訓練を積みますと地質を見る眼と地形を読む力が身につきます。そして専門用語のひとつひとつに快感をとまなうようになるのです。

それでは地質調査で培われる眼とは何でしょうか？ それは「点」の観察事実を「線」の理解に、そして「面」の物語(地史)に組み上げる思考力、あるいは考察力だと思えます。具体的には、点は一ひとつひとつの露頭の観察に当りますし、線は路線地質図、面は地質図を作りあげることそれぞれ当ります。賢治の「地質学的作品」にはこの点と線と面の作品が登場します。

「点」の作品の代表例は『イギリス海岸』です。賢治たちは北上河畔でくまみやはんの木の實、木の根株、たくさんの小さな草の実を見つけます。くるみの実はその形が非常に細長く尖っているため、はじめは重い地層で押し潰されたのだろうと考えますが、縦に埋まる実を見つけてやっばりはじめからこの形であったと結論します。地層の中に化石がふくまれるようす



土井宣夫氏

を突によく観察しています。また子供が偶蹄類の足跡化石を見つけたときも、足跡を火山灰が直ちにおおって保存したことを見抜きます。そして地層と化石の観察をもとに賢治はついにここは昔海岸であったと結論するのです。「ここを海岸と名をつけたってどうしていけないといわれましようか」と自らの考察に自信をみせます。このように露頭のくわしい観察と考察から作品が生み出されています。

「線」の作品の代表例は『台川』です。この作品は歩きながら子供たちに地質を説明していく話ですが、これは路線地質図(ルートマップともいいます)を作る作業に当ります。ルートにそって歩きながら地図を作り、地質を観察し記載していくのです。この作業をはじめますと次第に地質の状況がわかって

きますから、ルートの先の地質が予想できるようになります。これが線の調査の面白さなのです。賢治も行き先のことを予想しながら、ときに予想がはずれて失望しながら川を上っていきまます。ところがそれまで眼前の事象ばかり話していた賢治は、「温泉の作用」をみつけると「この裂け目を温泉が通ったのです。(略)ここがずうっとつちの底だったときですよ。わか

いた専門用語は、形成時代が新旧大きくへだたり異質な奥羽山脈と北上山地の地質と地形に対する愕きをあらわしているようにみえます。若い奥羽山脈では生きていく火山、岩頸、温泉などの用語が、古く大陸的な北上山地では、長い時間の流れを示す蛇紋岩、橄欖岩、粘板岩、準平原などが対照的に用いられています。ここにもふた地域の地質を調査してきた者の眼と体感があらわれています。

第39回 2月15日(月)

- ▽会場 農学部1号会議室
- ▽講師 岩手大学副学長 大塚 尚寛氏
- ▽演題 「銀河の誓い in 葦崎・アザリアの友たち」に参加して
- ▽司会 小島 聡子
- ▽参会者 19名。

大塚先生がパワーポイントを使用しながら話された内容は本号41頁に特集記事として詳しく述べられている。葦崎の皆さんが手作りで、心を込めてこの行事を準備された様子に大変感激されておられた。葦崎から送られて来たDVDのエッセンスを音声とともに再生し、まるで



大塚尚寛氏

の有為を説き存続を明治政府に認めさせた僧が盛岡の願教寺の住職をした鳥地黙雷であり、又、養嗣子となり同寺を継いだのが鳥地大等で、当時の代表的仏教学者の一人である東大の教授を勤めました。天台が称えた「本覚論」に明治期再び脚光を与えた僧です。

そこに本覚の仏界を磨き現すと云う修行を加味した時に初めて完成された人格になると唱えたのが日蓮で、賢治さんは「南無妙法蓮華経」と唱え、自分は文学で法を広めると語ったと言われて居ります。ともかく新たな角度のお話に興味しんしんでした。

◎「点と線と面」との「題」で松本清張を思い出しました。これははれつきとした賢治さんのお話でした。賢治さんが盛岡高等農林時代、関豊太郎教授より地質学を学び、その知識を作品の中に生かして書いているとの指摘でした。素人の私達から見ると何の変哲も感じないで読んでみると、何を「イギリス海岸」を地質学的な「点」で見、「台川」を「線」で、又「春と修羅」を「面」で見ると言う新しい側面を教えられた事です。「賢治さんを一日に倍楽しむ」と言う「茶話会」の趣旨の通りでした。(文責 姉齒武司)

「茶話会」の便り

「茶話会」の便り

定例会後の講師を囲む「茶話会」では、定例会とは又違ったお茶を飲み菓子を食べながら少人数でのプライベートな雰囲気での語りになり、毎回講師の方とより深い質疑になります。中には「大きな声では言えないですが」と私的な発言もあったりで本当に楽しい一時になります。その中で何点か私の感じた事柄を紹介します。皆さんもどうぞ茶話会にご参加ください。

◎高橋信雄さんの話題の広さと深さには感心を致し、本当に楽しい思い出の時でした。エジプト学の吉村作治さんと友人のこと、宮澤清六さんとのお話とサインを頂いたこと、西域を歩いたこと、「捨身飼虎」に対する山折哲雄氏の説と金子民雄氏の説、賢治さんの見方の違い、そこでの賢治さんの動物観の違い等、又多田等観のチベットでの修行と貴重な資料の中に、ダライ・ラマ13世から貰った世界で唯一の24枚の「釈尊絵伝」が花巻にあること、そして賢治が信仰した大乘仏教の法華経は、インドのクシャーナ朝時に形作られ中国に伝来した事、又宗教の源流はアフラ・マズダーのゾ

ロアスター教までさかのぼること等その話題の広がりにわくわくする思いでした。

その中で、「インドラの網」の一節の「天頂から四方の青白い天末」が「スペクトル製の織維」で繋がっていると言う天空の広がりは、広大な宇宙の広がりを言い、そのどこか一カ所に触れば全天空を覆う「網」に影響を与え、あらゆるところに、たとえ微かでも動きの変化が出る事。この事は世の中に他と無関係で全く単独にあるものは無い、全てが影響し合っていることを表している事。それは仏教的な「縁起観」をあらわし、どこか一カ所の変化は四方八方に伝わってあらゆるところに影響を与えて行く。所謂現代的には「バタフライ効果」とも言える「縁起」(縁りて起る)、又は「依他起」(他に依りて起る)等の仏教上の原理を「インドラの網」として表していると思われる事。又、そのあとの「マイナスの太陽」や「天の太鼓は鳴っていないが」「鳴っていない」等は所謂「ブラック・ホール」を表しているとの事等お話がありました。

賢治さんの文学はいろいろの角度に読めると言われますが、その広さ深さの読み方のお話をきき、より深く知ったような気がします。ルートの先の地質が予想できるようになります。これが線の調査の面白さなのです。賢治も行き先のことを予想しながら、ときに予想がはずれて失望しながら川を上っていきまます。ところがそれまで眼前の事象ばかり話していた賢治は、「温泉の作用」をみつけると「この裂け目を温泉が通ったのです。(略)ここがずうっとつちの底だったときですよ。わか



楽しい茶話会風景

# 宮澤賢治記念短歌会報告

望月 善次

宮澤賢治記念短歌会は、宮澤賢治が盛岡高等農林学校時代に行っていた文芸活動は、ほとんどが「短歌」であったことを記念して、自分達も「短歌と戯れる」ことを掲げて行っている会である。例会は、毎月一回（土曜日の午前が多い）。内容は二つで、一つは望月による「（広義の）賢治短歌」に関する一五分ほどのミニ広義。もう一つは、会員持ち寄りの作品による一時間ほどの歌会である。会員は、事前にその月の当番宛に作品を提出し、当番はそれを無記名にして当日配布し、会員はその一覧から選を行う。当番は選の結果を踏まえながら、進行を担当する。

今期も一回の休会もなく、活動を順調に積み重ねている。また、本年度は、全国学生宮澤賢治大会が行われなかったため、学生短歌会の運営も行うという「離れ業」も行ったが、そうしたこともできる力量を蓄えつつあるとも言えよう。

各自が今期の作品の中から選んだ二首は次のようなものである。

田村依江  
 ・ころころと路上に転ぶ  
 落葉みて幼も共にころころ回る  
 ・そぞろ鳴く虫の声さえ  
 聞こえざりゴーストハウスの灯りある部屋

佐藤静子  
 ・萩の花こぼるる石段  
 下りゆけば萩尽くる所  
 （と）に待つ人の居る  
 ・吾もまた紅（くれぬい）  
 ふかく裡に持つ吾亦紅一つ石段の下

昆 明男  
 ・フランスはボンビドー  
 センターの前庭でマドモワゼルがミニで寝ころぶ  
 ・ノートルの近くに居りし  
 パリジャンは犬抱きながらコインをせびる

阿部真紀子  
 ・竹林に風少し立ち少し  
 冬欠席の日の歌会を想う  
 ・取り入れてキウイの枝  
 はからになり風少し出て  
 空広くなる

吉田直美  
 ・ぎんなんと呼ぶ人がいて、  
 裸木（はだかぎ）の形にうかが黄金色（きんいろ）の季節（とき）  
 ・サザンカの赤紫もたまにはいいひっそり咲くを  
 備前に挿した

小菅アイ  
 ・春雨の溜れる水に雲映り  
 見上ぐる空を白鳥渡る  
 ・臥所にて障子に射せる  
 月光に目覚めて生家の十五夜思ふ

姉齒武司  
 ・年経る毎（ごと）月日の  
 早く過ぎ去るは残世の一瞬（ひととき）蜻蛉の生  
 ・古る厩下に願いのカレンダー  
 不安の時代（とき）より希望の年へと

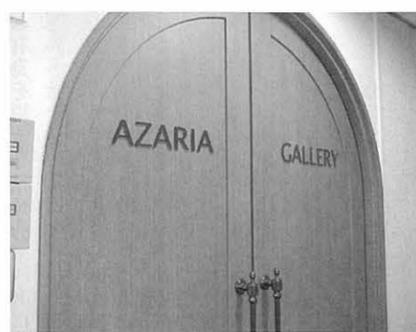
北田まゆみ  
 ・1日に2合を炊いて足る  
 二人老い行く具体に食卓明るし  
 ・生真面目が笑いとなりぬ  
 うつつ世に東海林太郎の直立不動

## アザリアギャラリー・銘板のデザイン説明

### AZARIA GALLERY

岩手大学図書館の1階にギャラリーがあり、学生達のいろいろな展示に使用されてきました。昨年、岩手大学60周年を記念して、このギャラリーで「アザリアの咲くとき」展が開催されましたが、この部屋に名前がないので、大塚副学長の提案で「アザリアギャラリー」にしてはということになり、10月8日に銘板の除幕式が行われました。その銘板は写真のとおりですが、その意図を藁谷教授からお聞きしました。

「アザリアの中心となった4人、宮澤賢治、保阪嘉内、小菅健吉、河本義行の輪をこれから大きく発展させて欲しい、そしてもっと大きなたくさんのアザリアの花を咲かせて欲しい、という願いを込めてデザインしています。アザリアギャラリー（AZARIA GALLERY）の水平の文字に、4人が蒔いた友情の大地、そしてこれから行われる展示活動の蓄積、交流空間として見立て、その中から「アザリア」が開花する、という願いを込めてみました。「アザリア」の書体は、当時の「アザリア」の表紙からそのまま転写して、4人の想いが画像としても視覚的に伝わるようにしています。また、ギャラリーの命名がどなたにもわかるように、その命名の説明を加えさせて頂きました。」ということです。今後ますますの活用が期待されます。



2010年1月23日

# 第3回宮澤賢治学生短歌大会報告

第3回宮澤賢治学生短歌大会は、本年度は「宮澤賢治全国学生大会」が行われないという事情を受けて、「宮澤賢治記念短歌会」が代行した。募集期間が短いこともあったが、232名からの応募があった。選者は、仙台市在住の歌人佐藤通雅氏と洋野町在住の歌人佐藤亮氏と筆者とで行った。（なお、宮澤賢治記念短歌会のメンバーにも選をお願いして、入賞者を決定する資料とさせてもらった。）

表彰式は、1月23日（土）午前10時から、百年記念館で、宮澤賢治記念短歌会メンバーの準備・進行のもとに行った。岡田幸助代表の挨拶の後に、



賞状・賞品の授与、文屋亮氏からの講評があり、入賞者を代表して、阿部楓果さん（花巻市立花巻小学校）と本宮勝君（盛岡市立仙北小学校）からの挨拶があった。（子ども達に寄り添った文屋氏の姿勢が印象的であった。）

会場は、引率の先生方や保護者の方々に溢れ、熱気に満ちたものとなった。入賞作品と贈った賞状文等は以下の通り。

**最優秀賞**  
 1 らす地人 きょう会のへやまんなるい ような空気がただそこにある（川村純華 花巻市立花巻小学校）

賢治にとって大切な場所である羅須地人協会の空気は、「まんなるい ような空気が ただそこにある」としか言い様がないかも知れませんが、見事な感じ方、見事なまとめ方に敬意を払い、賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

**優秀賞**  
 18 こっち見て よそ見しないで お月さま 「雨ニモ負ケズ」歌うんだから（大内菜々子 花巻市立花巻小学校）

あの有名な「雨ニモマケズ」に寄せる深い思い。それを「お月さま」に語りかける形でまとめたところが素晴らしいですね。賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

61 私なら あなたに一位 あげましょう 頭の先っぽ とんがってる子（米田美咲 花巻市立花巻小学校）

「どんぐりと山猫」の一節を切り取って上手にまとめてみせましたね。美咲さんの作品から「えらい」ってどういうことかを、自然と考えてしまいますね。賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

70 なるほどと 思う話は 覚えてる 山ねこふむふむ なるほどなるほど（佐藤優樹 花巻市立花巻小学校）

人間は、何を覚えているのでしょうか。「なるほどと思う話」ですね。最初の「なるほど」結句の二つの「なるほど」と「なるほど」を三回も使いながら見事にまとめましたね。私達も「なるほど」と思いながら、賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

**奨励賞**  
 17 ふくろうよ ほうほうない

「はばたいて ほうほうとんで わたしにとまれ（齋藤愛花 花巻市立花巻小学校）」

ふくろうは宮澤賢治とつても大切な鳥ですね。「ほうほうないて」「はばたいて」「ほうほうとんで」の三つの行動を「わたしにとまれ」と見事にまとめましたね。賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

40 貝の火に いろんな花がさいている にじ色きりりか がやいている（小松 由佳 花巻市立花巻小学校）

「貝の火」の不思議さ。その様々な色の輝きを通して、人間の生きる意味、勇気の意味が問いかけてられていますね。由佳さんが、「貝の火」やホモイをどう感じたかを思わせる作品ですね。賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

53 ことわれ ことわれ ことわれ ことわれ ことわれ ことわれ ことわれ ことわれ ことわれ ことわれ（山口新太 花巻市立花巻小学校）

「よだかの星」の一節でしょう。か。「ことわれ ことわれ ことわれ」飛んで行くことの意味、「強く」あろうとする奥にある悲しみも考えさせてしまいう作品ですね。賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

68 めちゃくちゃで ばかになつてないなんて だれでもえらくなるチャンスあり（熊谷藍花 花巻市立花巻小学校）

「どんぐりと山猫」からの作品でしょうか。第二句の「ばかになつて」の字足らずが少し気になったのですが、「だれでもえらくなるチャンスあり」とキツパリと言われるとそれどこかに吹き飛んでしまう思いです。賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

74 一郎は 裁判早く終わらせろ 山猫ニヤリ どんぐりばかん（高橋栄太 花巻市立花巻小学校）

「どんぐりと山猫」の裁判は、不思議な裁判ですね。誰もが「ニヤリ」とするところ「ばかん」となるところがありますね。それを「山猫ニヤリ どんぐりばかん」とまとめたところが高橋作品の素敵どころですね。賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

89 亡くなった 後も童話に移り住み みんなの中にずっと生きてる（石亀龍虎 花巻市立花巻小学校）

今、宮澤賢治は世界中で読まれています。賢治を、詩や短歌の中に感じるか、童話の中に感

じるか意見の分かれるところでしょうが、「童話に 移り住み」というのが石亀作品の主張ですね。「ずっと生きてる」が更に豊かなことを祈りながら、賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

**104** 山猫に しょうたいされて冒険だ 滝までしゃべる ふしぎな世界(菅野あやめ 花巻市立花巻小学校)

「どんぐりと山猫」の招待は、一体何だったのでしょうか。「冒険」であり、「滝までしゃべる ふしぎな世界」だったのです。その中で、人はどう生きるのかを考えてしまうところが凄いですね。賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

**124** 川岸に 丸石があり 目鼻かく 賢治の丸顔 そっくりだなあ(阿部楓果 花巻市立花巻小学校)

ほとんどの人が、賢治の作品の世界から短歌を作ろうとした中で、賢治の顔を描こうとした発想が素晴らしいですね。しかも「そっくりだなあ」の結句。感嘆、脱帽した選者もおりましたよ。賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

**156** トブンとねおちてきたのは

やまなしたにおいにつられ追うかけ法師(安田有紗 盛岡市立仙北小学校)

前半の「トブンとねおちてきたのはやまなした」は、「かに」に近い視線、後半の「においにつられ追うかけ法師」の第三者的視線。二つの違う視線が結局のとまりましたね。賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

**208** セロひきのゴーシユのかなでた音色はねイーハトーブの風によく合う(本宮勝 盛岡市立仙北小学校)

ゴーシユの引いたセロ(チェロ)の音はどんな音だったのでしょうか。その具体的な音は想像するしかないのですが、その音



はとにかく「イーハトーブの風」に合うことを教えてもらえましたね。賞状をお送りし、一層の活躍をお祈りします。

**学校賞**

花巻市立花巻小学校

貴校は、今回も多くの作品を応募くださいました。継続性といい、作品の質の高さという圧倒的であり、流石は賢治の母校だと感嘆致しました。今後、全年の応募等を踏まえ全国の目標となつてくださることを祈りながら、ここに賞状お送りし、一層の御活躍をお祈りします。

**賢治と音楽の会便り**

この会も平成22年1月で22回を数えました。賢治が聴いたと思われる曲、あるいはその曲の作曲家にスポットを当て、この曲を賢治はどう聴いただろうかと、またどう聴くだろうか等々と思いを巡らし、ここまでやってきました。昨年7月からこの1月までに聴いた作曲家を上げると、ベートーベン、シューベルト、メンデルスゾーン、ラフマニノフ、ドビッシェとロマン派から印象派まで、賢治の青春時代である20世紀の基礎を築いた作曲家達なのに気づきます。

これらの作曲家は現代でも人気があり、ましてや集まってこられる60歳以上の会員にとつて約50年の隔たりはあるものの、賢治と同じ年頃、正に青春時代に聴いた作曲家達でもあるのです。青年期の多感な時代に、音量の小さい蓄音機から凛と響いてくる音に空想の世界を広げたであろう賢治。山川を跋渉し自然の音に敏感であったであろう賢治にとつて、西洋音楽を聴くことは自然、宇宙、心象世界が一体となった燦めく時間の体験であったのでは無かるうか。賢治の青春時代は大正ロマンとも言われ、鎖国から目覚めた日本が欧米から急速に取り入れた文化を日本なりに消化し、新たなロマンを築きつつある頃でした。さて、この会に集まる多くの諸氏は、日本の大転換となる大戦前後に生まれ、戦後復興の貧しいが活気に満ちた時代に育ち、青春期はもはや戦後ではないと言われた日本のアイデンティティができた頃、ある頃に育ちました。賢治の頃の大正ロマンは、一部インテリ金持ち階級の文化のような気がしますが、我々が育った戦後民主主義教育の時代では、中学高校で西洋クラシック音楽を学び、青春時代に名曲喫茶で未来を論じた言わば大衆ロマンの時代でした。

音楽が聴ける環境も技術革新によって急速に発展し、金持ちでなくても気軽にクラシック音楽が聞ける環境に整つてきています。賢治の時代には、賢治のような英才でいかに多感な人でも、それなりの富裕層でなければ彼のような世界を世に残すことは不可能であったでしょう。戦後大衆ロマンの時代に育った我々は、誰でも賢治になれる環境にあるものの、天分は民主主義とは行きません。しかし、賢治の世界に共感する多くの我々を支えていることは確かです。

12月には昨年同様、ベートーベンの第九交響曲を聴きました。今回は会員のお一人、毛利さんに紹介をお願いしました。賢治の自然、人間、宗教への思いの中で、最も人間としての生き様に励めとなり、力となり、勇気をもたらしたのはこの九番であったのではなからうかとの意を強くしました。多くの不幸と失意の中で素晴らしい世界を構築し残すことができたのは、この曲に代表される音楽と、自然が教示する宗教観だったのかも知れません。1年の厄を払う年末に、毎年のように第九を聴く我々もまた、同様の励めと勇気をこの曲から戴いたのでした。

(小野伴忠 記)

尽力頂きました方々に厚く御礼を申し上げます。



**「農商工連携」で はなまきから 未来を拓く 「テクノフェアはなまき2009」**

テーマ：次世代が奏でる賢治のハーモニー  
inテクノフェアはなまき

**一、開催日**

2009年10月25日(日)  
10:00~12:00

**二、会場**

花巻市総合体育館

**三、内容及び出演団体**

- ・「宮澤賢治作品の群読」  
花巻市立花巻小学校
- ・「猫ならぬ」(ダルマの事務所)  
岩手大学バベット☆きつず
- ・賢治に関する音楽の発表  
岩手大学音楽科有志
- ・「吹奏楽」  
花巻市立湯本中学校

**◆実行委員の声◆**

工学部4年 大森 美香  
2009年10月25日、花巻市総合体育館テクノフェアはなまき2009内において、フォーラム「宮澤賢治と農商工」が行われました。「次世代が奏でる



賢治の「ハーモニー」をコンセプトに行われた今回のフォーラム、そのコンセプト通り幅広い世代による発表で宮澤賢治の魅力を存分に伝えることができました。内容も保育園児によるしかおどり、小学生による群読、中学生によるプラスバンド演奏や大学生による人形劇や音楽など、様々な方面から宮澤賢治に触れることのできるものとなり



ました。老若男女たくさんの方々に見て頂くことができ、今回のフォーラムを通じて宮澤賢治をより身近に感じて頂くことができましたと思います。これからも次の世代から次の世代へと宮澤賢治の魅力を受け継いでいくことができればとても素敵だと思えます。

\*\*\*\*\*  
教育学部3年 柴田 良輔  
今まで宮澤賢治学生研究会は、岩手大学を舞台に二度の全国宮澤賢治学生大会を行いました。今年も、全国宮澤賢治学生大会とは活動を変え、花巻で発表の機会を設けさせていただきました。賢治の故郷である花巻で、花巻に住む皆様に日頃の私



達の成果をご覧頂きましたことは、岩手大学で行う大会とは異なる意義がありました。

岩手大学からは、音楽科による演奏「星めぐりの歌」、「精心歌」と人形劇サークル「バベットきつず」による「だるまの事務所」を発表致しました。ステージ上で催し物が始まると、産業フェアの来場者の視線が一斉にこちらのステージに向けられ、会場の喧騒が一瞬にして静まり、体育館がまるで賢治の世界になったかのようでした。フェアにご来場頂いた方々と賢治を通して交流できたことは、新たな学生研究会の在り方を提言するにふさわしい試みだったと思えます。末筆となりますが、ご



# 倉吉訪問記

6月に開かれた「アザリアの咲くとき」展のお札をかねて、鳥取市で開催された日本獣医学会終了後、倉吉市を訪問した。倉吉市は賢治の親友河本（かわもと）義行の出身地である。河本義行は俳人として有名で緑石（ろくせき）という俳号を持っている。9月27日(日)倉吉駅前のホテルで河本緑石研究会会長の波田野領二郎氏と面会した。河本義行のご長男一明氏の長男義和さんも一緒に来られた。挨拶の後、まず倉吉市立図書館に案内された。図書館は「倉吉未来中心」という円形の立派な建物の一角にあり、そこには義行すなわち緑石の資料が安全を考慮して大切に保管されていた。緑石自筆の原稿などがきちんと



波田野氏、河本氏とともに図書館にて

封筒に収められ段ボールのケースに整理されていた。資料は500点あまりで資料目録が発行されるという。

次に玉川沿いに美しい白壁の土蔵が多く並び、水路には錦鯉が泳ぐ旧市街を案内してくださった。酒屋さんや醤油屋さんがあり、懐かしい「もろみの匂い」が漂っていた。一軒の古めかしい料理屋さんで鮎をごちそうになった。この鮎は河本義和さんのご自宅で養殖されたものだそう、非常においしくて今もその味を思い出してつばを飲んでいられる。義和さんは天神川漁業協同組合の理事をなさっている。倉吉文化団体協議会の副会長で、河本緑石研究会の事務局長をなさっている押本昌幸氏も同席された。皆さんは昭和57年に始まり昨年で27回を数える「アザリアのまち音楽祭」の活動にかかわっておられ、その話題についてもお聞きすることができた。

「アザリアのまち音楽祭」は河本義行の実践した「砂丘社」という芸術運動を引き継ぐ目的で、毎年初夏に1ヵ月ぐらゐの期間にわたり開催されている。2002年10月には鳥取県の地元の方々に「ポラーノの広場」というオペラを新作・上演された。2時間以上にわたる本格的

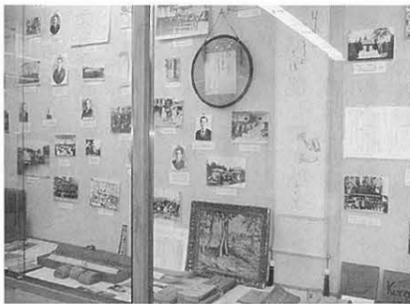


緑石の実家

なオペラで、以前そのDVDを見せていただいたが、非常に感動的であった。現在、私とそのDVDを預かっているのが、岩手大学の宮沢賢治センターでも鑑賞会を是非開きたいものである。

翌28日(月)河本家を訪ねた。緑石の長男一明氏の妻である茂子さんがおられた。仏間には緑石の油絵の肖像画が掛けられてあった。奥の部屋にとおされ、資料をいろいろ見せていただいた。アザリアも4冊あった。最近修復され、今後、大切に保管されることになる。4人の写真も良い状態で保管されていた。また賢治から届いた「注文の多い料理店」、「春と修羅」も見せてくださった。

倉吉農業高校を見学した。正門に通じる道の片隅に緑石の句



倉吉農業高校の展示室、緑石コーナー

碑があった。仮名遣いを正確に覚えていないが「あらうみのやねやね」と記されていた。次に資料展示室を見学した。この農業高校は創立120年になる名門校で緑石はこの学校の教員をしていた。資料展示室は所狭しとこの学校のゆかりの資料が展示されていた。その中に緑石のコーナーもあった。水泳訓練中に溺れた配属将校らを助けるために飛び込んで帰らぬ人になったことが詳しく書かれた追悼文集を見せていただいた。緑石の墓所と、緑石が岩手から持ち帰ったキササゲの木の下に建つ「きささげの句碑」を見学した。

夕方、次女の道子さんの経営する三朝温泉の木屋旅館に着いた。三朝温泉は800年も昔に開かれ、放射線を含むラジウム温泉である。木屋旅館の向にミニ資料館「カンパネラの館」



キササゲの句碑に立つ義和氏

がある。緑石が水死したことから「銀河鉄道の夜」のカムパネラのモデルといわれていることによる。この旅館は明治の頃建てられ100年以上の歴史のある古い木造の旅館で、道子さんの染められた藍染めがのれんはもちろん、手すりなど至る所に使用されていた。部屋に案内され温泉につかりゆつくりした。次の日、道子さんは三徳山の投入堂に案内してくださった。お堂は切り立った崖のくぼみに建てられていて、近寄ることではできなかったが国道から眺めることができた。標高900mの崖にどのようにして建てたのか不思議である。

岩手大学60周年を記念して生まれた岩手、山梨、栃木、鳥取の交流を今後とも末永く続けて行きたいという思いを新たにしたい。(岡田幸助 記)

# 「経埋ムベキ山登山」 第5回 種山ヶ原登山

## 「噫 種山ヶ原」

久々に岩手大学の「宮澤賢治センター」主催の「種山ヶ原」行きが九月二十一日、秋の大型連休の中日に決行されました。愛知、宮城からの参加者とともに十数名で「賢治の気圏を歩いた」のです。

バスの中のナビゲーターは望月善次先生。前日にインターネットから取り込まれた恐ろしくアカデミックな資料三枚と『新』宮澤賢治語彙辞典から「たねやまか」を引いた(種山ヶ原の一枚を渡されました)。そして「今日はアカデミックな賢治は忘れて」と言われたのです。首をかしげている間に



## 「噫 種山ヶ原」

バスは一路種山ヶ原へ。四国四県に匹敵する拡大な岩手。その三分の二を占める北上山地。この巨大な山塊の真中に古生代の蛇紋岩や橄欖岩を布き展べて、乳房のかたちを象るといふ種山ヶ原。雲や霧や雨に鎖されるお定まりのお天気も、今日はノー天気で初秋の爽やかな風が渡っていきます。

物見山の頂上に一番近い駐車場から「お日さん」を背中がにしょへば「日あたりのいい草原には夏のなごりの花々が音符を綴るように物見山の山頂まで、ここかしこに点々しています。」「ざんががのすすきの底でそつこりと咲くうめばちの愛とおしえどし。」「鹿踊りのはじまり」の梅鉢草はじめ千振、駿の証拠、山母子草、岩鷲薊、峯薄雪草、釣鐘草まで、ありなしの風にちっちゃなバラードを奏でていきます。空につき出した残丘の(モナドノックス)底なる洞は(賢治ホテル)と名付けられています。賢治の想念の雨やどりの場否ハートブレイクホテルらしいのです。

物見山(870.6m)は「賢治センター」のテーマの一つである「経埋ムベキ山」の一角です。「風の又三郎」の舞台でもある頂きからは、北に岩手山、早池峰、西に栗駒、焼石連峰、東に五葉山、南に室根山をのぞむ一大パノラマが展開されます。山頂から南に「アザリアの広場」を通り、落葉松林の登山道に入るとそこは樹霊たちが山の幸の稔りを告げる細道で、ほんのり甘い山帽子のうす赤い実やちつぱり酸っぱい山葡萄や熟れた実はほろ酔い気分です。横なる山梨など昼食前のデザートにみんないただきました。(「ブルーベルの広場」でちよつと喉を潤し牛や馬の監視小屋を見て、ようやく「水辺の広場」に辿り着いたのが午後一時半。待ちに待った。おにぎりタイム)です。

あでやかに彩り、釣船草や溝萩も水辺にひっそりと息づき、水辺の女王の貫緑十分な奥鳥兜、沢蓋木をつぶらな実の瑠璃色、とつておきのスポットは同じ処に決して根をおろさない習性が謎めく赤い土あげ。こんなに豊富な種山ヶ原を堪能し、幻の花の絵巻まで散見できて圧巻でした。それもこれも年に四十回ものガイドを務めて研鑽されている自然観察員の佐々木義郎さんのおかげ、同行のみなさまのおかげ、そしてなにより岩手大学「賢治センター」のおかげです。最後の(せせらぎの広場)には今孵化したばかりの指の爪ほどの殿様ガエルの群に遭遇し、あらためて、「一本木野」のフリーズを思いました。

草は ほんにちゆつくりとあるくことは いったいなんといふおんけいだらう... (永井雅子 記)



### 「銀河の誓いin 葦崎・アザリアの友たち」に参加報告

平成21年10月11日(日)、葦崎市において「銀河の誓いin 葦崎・アザリアの友たち」に参加して

岩手大学副学長・情報メディアセンター長 大塚 尚寛

平成21年10月11日(日)に、葦崎市において「銀河の誓いin 葦崎・アザリアの友たち」の集いが開催されました。これは、同人誌「アザリア」の主要メンバー4人の子孫や関係者が一堂に集まる記念すべき集いで、葦崎市制施行55周年記念式典に続いて開催されました。この集いに岩手大学から、藤井克己学長、佐藤賢治総務広報課長と大塚の3名が参加しましたので、報告したいと思います。

葦崎での集いに出かける前に、岩手大学図書館ではひとつのセレモニーが行われました。実は、岩手大学図書館ギャラリーには、これまで名称がありませんでした。そこで、昨年の岩手大学創立60周年記念展示の開催を記念して、「AZARIA GALLERY」と命名することになりました。記念プレートの除幕式が、10月8日(木)に行われました。このプレートは、教育学

### 平成21年10月11日(日)・葦崎市

部芸術文化課程の薬谷収教授のデザインによるもので、深紅の落ち着いた色調で、洗練された雰囲気を出しています。ギャラリーの名前とともに、大変誇れるものと私は思っています。

さて、葦崎市には、記念の集いの前日10日(土)の夕方に到着しました。私達を待っていたのは、趣向を凝らした色々な催しでした。アザリア記念会から、つぎのような「銀河の集い」レセプション招待状を頂きました。

**銀河鉄道時刻表**  
午後6時10分  
銀河鉄道展望公園 着  
午後7時00分  
レストランキユイエット 着  
午後8時00分  
1時間30分停車  
レストランキユイエット 発

この時刻表に沿って、銀河鉄道の旅に出掛けるのです。最初の目的地は、銀河鉄道展望公園。そこから見た中央本線の列車が光をたなびかせて登っていく様子は、まさに「銀河鉄道の夜」そのものでした。つぎは、ブドウ棚の中にある煉瓦造りの

瀟洒なフランス料理レストラン キュエットでの晩餐会。ここは、「注文の多いレストラン」となり、賢治の作品を彷彿させるような料理がテーブルに並び、私達を楽しませてくれました。また、山梨はワインの本場です。自慢のワインが振る舞われ、6月の岩手大学での記念展示で顔見知りになった多くの人たちとの交流を深めているうちに、午後8時30分の発車時間が、瞬く間にきてしまいました。

次の11日(日)は、快晴に恵まれました。事前の打合せを済ませ、会場の東京エレクトロン葦崎文化ホールに入ると、アザリア記念会副会長の林紘子さんらによる箏曲「光のトレイン」が流れており、会場はもう「アザリアの友たち」の世界でした。そして、アザリア記念会会長の清水一さんが脚本・演出をされた構成劇「銀河の誓いin 葦崎・アザリアの友たち」が始まりました。司会進行は、アザリア記念会事務局長の向山三樹氏で、風の又三郎に扮して場を盛り上げます。劇中では、保阪家から長男善三さん、宮澤家からは賢治の弟清六さんの孫・和樹さん、小菅家から長男充さん、そして、河本家から義行の次女御船道子さんと孫の河本義和さんの順に、「アザリアの友」の思

催された岩手大学創立60周年記念事業「アザリアの咲くとき」展が終了してから未だ3カ月も経過しない9月の初めに、葦崎市の横内公明市長さんから市制55周年記念事業の集い「銀河の誓いin 葦崎・アザリアの友たち」への参加依頼のお手紙が届きました。

「葦崎アザリア記念会」の活動が市制記念という大きな事業に選定されたことにまず驚きましたが、その集いの構想を知りまた驚いてしまいました。出演者がアザリアの交流に実際関係している人たちであり、風の又三郎に扮する向山事務局長の進行によって、出演者は舞台上でそれぞれ自分の言葉を語り、それを繋げ通すと構成劇が仕上がるといふ斬新で大胆な構想だったので。

それにしても、「やまなしの木」から始まった幸運の連鎖が、ここでもまた岩手大学と葦崎市の周年事業へとタイムングよく続いたことはあまりにも出来過ぎであり、天上のアザリアの友たちの力を考えてしまいました。

「アザリアの花言葉はインターネットで調べた結果、「自立心」、「青春の喜び」でした。」私の机の上には、葦崎市の歓迎レセプションの際に配られました、アザリアのコサージュが今も置かれております。

アザリアの仲間12人と同様に、岩手大学生が「自分を見つめ」、「自分を話し」、「自分を育てる」ことができる人間に、上田の杜の空気と風と水の中で育てて貰いたいものです。

アザリアの花言葉はインターネットで調べた結果、「自立心」、「青春の喜び」でした。」私の机の上には、葦崎市の歓迎レセプションの際に配られました、アザリアのコサージュが今も置かれております。

葦崎に咲いたアザリアの交流 盛岡市 石田 紘子  
葦崎市制55周年事業のお知らせ 昨年(平成21年)の6月に開



幕式の後、プレート前で(藤井学長、大塚、岡田ミュージアム館長)

続いて、藤井岩手大学学長が、農業教育資料館のスライドをバックに、アザリアの仲間たちの母校として岩手大学開学60周年に取り組んだこと、学生達にこの精神を伝え受け継ぐことの大切さについて述べました。そして、60周年記念展示を行った大学図書館ギャラリーを「AZARIA GALLERY」と名付けたことを報告しました。その後も、望月善次盛岡大学学長、石田紘子元杜陵小学校長などのお話が続き、スライド・寸劇・音楽で嘉内とアザリアの友たちの交流が表現されました。最後は、登壇者全員が「星めぐりの歌」を合唱して、記念の集いの幕が下りました。

今回の集いは、本当に記念すべき貴重なものとなりました。これを機会に、「アザリアの友」

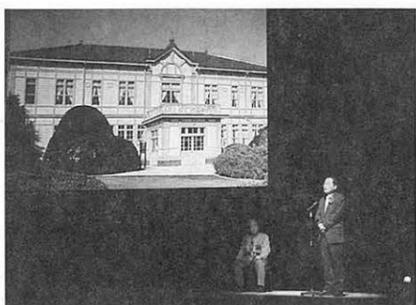
として、4家の交流が一層深まることを、賢治もどこかで願っていることと思います。

### アザリア紀行

岩手大学総務広報課長 佐藤 貢

平成21年10月11日の葦崎市制施行55周年記念事業「銀河の誓いin 葦崎・アザリアの友たち」に、私は、藤井学長と大塚副学長の随員として、初めて葦崎市を訪れました。

岩手大学と葦崎市との交流の経緯は、既にこの会報に多くの方が寄稿しており割愛させていただきます。私は、平成20年12月に保阪庸夫様をはじめとしますアザリア記念会の関係者の方が盛岡、岩手大学を訪られた際に、歓迎会に同席をさせていただきました。

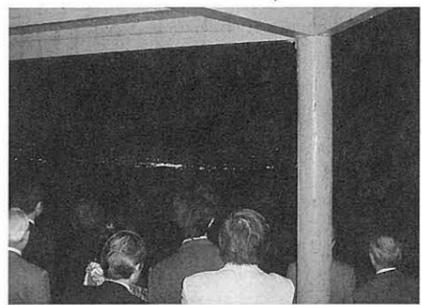


藤井学長のお話

続いて盛岡高等農林学校を代表して岩手大学藤井克己学長が登場し、「人間は二度死ぬ」と語られ、現代に指針や希望を与え社会的に生き続けている嘉内や賢治たちを顕彰する活動の大切さをお話しされました。

嘉内のご次男保阪庸夫氏は、映像を映しながら嘉内の生涯と人格形成に影響を与えてくれた人々について詳しくお話されました。

甲府一高出身で嘉内の後輩に当たる盛岡大学望月善次学長は、嘉内と賢治の短歌について話されました。高等農林時代の二人の短歌に力量差はなかったこと、嘉内は多才であるが故に短歌に集中せず、賢治は集中する時間をもったことにより、その後の道を分けたと明快に説明されました。



銀河鉄道展望公園

葦崎市の記念事業には、保阪家はもちろん宮澤家、河本家、小菅家をはじめアザリア関係者の方も多数招待されておりました。平成21年6月、岩手大学創立60周年記念展示として「アザリアの咲くとき」宮澤賢治と学友たち」のオープニングセレモニーの際に、初めて御遺族の方が一堂に会しました、またそれから数ヶ月で葦崎市において皆様が一堂に会えたことは、不思議なことであり、反面、当然のことでもあると感じられた次第です。

岩手大学が創立60周年を機に、卒業生との絆を深めるとしてホームカミングデー実施という見えない縁により、アザリアの関係者の皆様、盛岡、上田の杜に、集うことができたことは、アザリアの有志、盛岡高等農林で育まれた学友たちの息吹

が、時を超え、また、時を繋いでいるのだと思いました。

アザリアの仲間たちの母校であります岩手大学に、私は勤務させていたいておりますが、私たち教職員は、岩手大学を取り巻く環境が厳しいなかで、教育に、研究に、社会貢献に一生懸命努めております。今後、益々、岩手大学が発展するよう微力ながら頑張らなければならぬことを改めて感じさせてくれた、アザリア紀行でした。

岩手大学の木は、「桐」ですが、岩手大学の花は「アザリア」ではどうでしょうか？

アザリアの仲間12人と同様に、岩手大学生が「自分を見つめ」、「自分を話し」、「自分を育てる」ことができる人間に、上田の杜の空気と風と水の中で育てて貰いたいものです。

アザリアの花言葉はインターネットで調べた結果、「自立心」、「青春の喜び」でした。」私の机の上には、葦崎市の歓迎レセプションの際に配られました、アザリアのコサージュが今も置かれております。

葦崎に咲いたアザリアの交流 盛岡市 石田 紘子  
葦崎市制55周年事業のお知らせ 昨年(平成21年)の6月に開



大塚、石田、藤井、佐藤の各氏

木「やまなしの木」と「ぎんどの木」の誕生秘話を、「大人は子どもの夢を育ててあげるもの」と奔走くださった山梨県の方々のご努力のエピソードを交えてお話しさせていただきます。

さらに交流を現代に引き継ぐ人として、小学生の作文の朗読と、岩手大学大塚尚寛副学長・賢治研究者杉田英生氏のご紹介がありました。

最後には、横内公明葦崎市長が登場され、市制55周年の思いと生涯学習都市としての未来へのビジョンを熱く語り、出演者全員と握手を交わし、雄大な山梨の山並みに銀河が流れる映像と「星めぐりの歌」の美しいコーラスが響き渡る中で感動的に閉幕しました。

サプライズと感動が詰まった素晴らしい、素晴らしい記念の集いでした。

## 盛岡市動物公園を「賢治の動物園」に 開園20周年記念シンポジウム

早いもので盛岡市動物公園も昨年で20周年を迎えることができました。記念行事として、4月18日に記念式典、記念講演会を、7月25日に盛岡動物公園子供サミットを開催しました。最後に大人向けのシンポジウムとして、10月3日(土)に13:30~16:30まで岩手大学総合教育研究棟北桐ホールで「賢治の自然観と動物たち」縄文のくらしから自然との共生を考えるとというテーマでシンポジウムが開かれました。キャッチコピーは「きつねのところへ遊びに行くのかい...僕も行きたいな!です」。

基調講演はエッセイストで絵本作家の澤口たまみさんがしてくださいました。タイトルは「宮沢賢治 野をみつめるまなざし」で、「賢治の作品、その



澤口たまみさん

生き方を貫く思想は、岩手の野山を足しげく歩いて感性を養い、もの言わぬさままな生き物たちと心を通わせた結果、培われたものです。宮澤賢治は、決して特別に優れた感性の持ち主ではありません。できるだけ幼いころから自然に親しみ、心を耕すことよって、私たちもまた、野山の織り成す美しい物語を、自らの目で読みとることができのです。身近な動物たちを、自然に近い状態で見せてくれる盛岡市動物公園は、岩手の野山へと続く、ひとつの扉と言えるでしょう」と話されました。

一般講演として岩手大学農学部松原和衛准教授により、「大

学と動物園をつなぐ野生動物の研究」、盛岡市教育委員会文化財主任花井正香氏から「野生動物からみる今昔 縄文時代と現在」、宮澤賢治記念館副館長牛崎敏哉氏からは「賢治作品にみる動物世界」と題して講演が行われました。牛崎氏は「鹿踊りのはじまり」と「なめとこ山の熊」の鹿と熊について解説してくださいました。

最後のパネルディスカッション



松原和衛氏



牛崎敏哉氏



花井正香氏

ンではコーディネーターの岡田幸助教授から動物公園と自然環境のことを広く普及するため、宮澤賢治の童話をイメージして、「盛岡市動物公園を賢治の動物園」にしてはどうかという提案をしました。「賢治の動物園」としては最高の立地だと思いませんか。(岡田幸助 記)

## 宮澤賢治センター 会員名簿の作成

平成22年度の定期総会に向けて会員名簿の作成を行います。同封ハガキに必要事項を記入して4月30日までに事務局に返信願います。住所の公開を希望されない方は県名のみ記載します。

## 編集後記

葦崎市制施行55周年記念誌「花園農村の理想をかかげて」をお預かりしています。ご希望の方は事務局までお申し込みください。1部1000円

21年度後半も岩手大学60周年記念展示の余韻が続きました。デジタルミュージアム、葦崎市の55周年記念行事、倉吉訪問もアザリアの輪が広がった結果です。種山登山も天候に恵まれ、学生短歌大会にも優秀な作品が多数寄せられました。

## 宮澤賢治センター通信

○発行

〒020-0185

盛岡市上田四丁目三番五号

電話 019(622)6672

FAX 019(622)6493

E-mail:kenji@iwate-u.ac.jp

宮澤賢治センター(岩手大学内)

発行責任者 岡田幸助

印刷 杜陵高速印刷株式会社